

こころみ 2005. 7. 22

担当:校長会



=NRT分析結果を終えて=

～日頃の指導に自信をもち、さらにわかりやすい授業実践を目指そう!～

平成9年度からのNRT偏差値平均の推移

小4	国語	社会	算数	理科
9年度	51.6	50.5	51.4	48.1
10年度	51.2	50.0	51.2	49.4
11年度	52.7	51.0	52.0	50.0
12年度	51.7	51.4	51.9	50.0
13年度	52.2	51.1	52.3	50.7
14年度	50.9	50.4	53.1	49.3
15年度	52.4	51.8	52.6	52.4
16年度	53.8	53.7	53.0	53.4
17年度	53.8	53.4	52.8	52.9

小6	国語	社会	算数	理科
9年度	51.7	49.9	52.2	50.7
10年度	50.6	48.8	50.1	49.6
11年度	51.0	49.9	51.4	49.3
12年度	50.9	49.9	50.0	49.6
13年度	52.3	51.5	51.8	52.3
14年度	51.3	51.5	52.6	51.8
15年度	54.2	52.9	52.8	54.8
16年度	54.6	53.0	51.8	53.9
17年度	54.8	53.1	53.2	54.9

中1	国語	社会	数学	理科
9年度	52.3	50.3	50.1	52.6
10年度	52.5	50.3	50.4	52.3
11年度	51.5	49.5	50.2	51.1
12年度	53.0	50.9	51.2	52.1
13年度	52.5	50.1	51.4	52.8
14年度	53.5	51.9	52.6	53.8
15年度	52.7	53.4	53.8	54.7
16年度	54.4	54.7	54.8	56.2
17年度	54.4	54.8	53.7	55.7

中2	国語	社会	数学	理科	英語
9年度	49.8	49.4	48.7	50.3	48.5
10年度	49.9	49.0	48.1	50.9	48.4
11年度	49.2	48.1	48.7	50.5	46.9
12年度	49.6	48.0	49.2	50.7	47.9
13年度	51.3	49.5	51.9	50.4	49.5
14年度	51.8	50.2	51.3	52.5	49.7
15年度	55.3	53.0	52.5	53.9	50.1
16年度	54.6	51.8	52.3	53.8	50.1
17年度	55.5	53.6	51.5	54.1	50.0

中3	国語	社会	数学	理科	英語
9年度	50.5	49.2	48.6	50.6	49.4
10年度	49.8	48.2	49.3	50.2	48.3
11年度	49.6	49.1	49.3	50.2	49.3
12年度	50.6	48.8	50.9	52.8	48.4
13年度	50.3	48.6	49.6	50.9	48.9
14年度	52.2	50.4	53.7	51.0	51.7
15年度	52.5	51.7	51.8	54.0	50.1
16年度	54.1	53.3	52.7	54.0	50.8
17年度	54.6	52.2	53.8	54.8	51.2

偏差値平均の推移を見てみると、確実にその数値は上がってきており、指導の成果が現れていると言えます。特に平成17年度の数値を平成9年度と比べて見ますと、教科の平均が小学校4年生で約2.8ポイント、小学校6年生で約2.9ポイント上昇しています。又、中学校1年生で約3.3ポイント、中学校2年生で約3.6ポイント、中学校3年生で約3.7ポイント上昇しています。

このことは、大領域・中領域・小問の達成状況を分析し、達成不十分な問題を検討して、教え方の工夫や補充指導など、各校がその定着に地道に取り組んできた成果だと言えます。

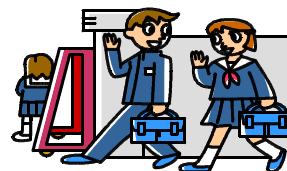
児童生徒の実態を把握し、理解しにくいと思われる領域の指導を工夫し、常に児童生徒の立場に立った指導がこれからも望まれます。児童生徒の活動を中心に据え、どうすればわかりやすい授業が出来るかを常に考える教師集団でありたいものです。

4月に実施したNRTの市全体の分析を載せた、平成17年度の「標準学力検査分析と考察」が過日刊行され各校に届けられました。大館市教務主任・研究主任協議会の代表方々が分析作業をし、まとめたものです。

今回はその中の【提言】のページに書かれている中から、何点かをピックアップして載せました。今後の指導にぜひ役立てて欲しいと思います。各校での実りある実践を期待しております。

<小学校>

- ①一単位時間の指導においては、本時の学習で何が分かるようになったのかが明らかになるようなまとめの在り方を工夫するとともに、それを子ども自身が実感できる終末の活動を大切にします。
- ②単にペーパーテスト上で理解を図ることに終始せず、調査や見学等の活動、作業的・体験的な活動、実験・観察等を大事にした学習で、実感を伴った理解により、さらに学ぼうとする意欲に結びつくような学習を展開します。
- ③加配教員の有無にかかわらず、いずれの学校においてもTTや少人数学習に積極的に取り組み、きめ細かく指導してきた成果が十分に現れている結果といえる。引き続き、学習が苦手な子どもたちへの補充指導にとどまることなく、できるだけ多くの子どもに発展的な学習を用意し、判断力や思考力も含めて、その力を最大限伸ばす指導が望まれる。



<中学校>

- ①実験・観察や操作・調査など、体験活動を下地として学んだ内容については通過率も高くなっている。日常生活の中で十分な観察や体験ができないものについて、どのような指導を行うことができるだろうか。
- ②日常のドリル等による指導の積み重ねの成果が好結果として表れている。基礎・基本を身に付けさせる手段として有効であると考えられる。逆に、文章を読みとる場面で、語彙力の不足による正答率の低下もあり、各教科の中でどのような指導を行っていくことができるかが課題である。
- ③生徒たちに学習のねらいを具体的に示し、「この1時間でどのような手段で、どのようなことが分かればよいか」を確実につかませる。また、自分たちで課題を設定し、意欲的に取り組むことができるようにする。

※大館市第5次学力向上対策、3か年計画の1年目の年です。

スローガン：子どもと教職員の力を**1割アップ**しよう。

